

非鉄金属レポート

ロンドン金属取引所 (LME: London Metal Exchange) ~ 2006年1月の動向

【概況】

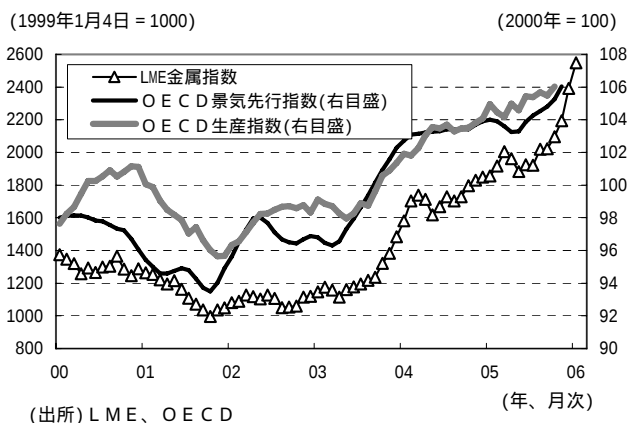
非鉄金属市況は総じて上昇基調が続き、特に1月後半には上昇ペースが速まった。亜鉛が史上最高値の更新を続け、アルミニウムは17年ぶりの高値圏で上昇を続けた。ニッケルは昨年9月はじめの水準に戻し、銅は一時伸び悩んだが最高値を更新した。非鉄市況全般の動向を表わすLME金属指数の動きをみると、昨年末の2405.0から2月6日には2789.8まで16%も上昇した。

昨年終わり頃から、世界景気の回復力に対する見方が好転してきており、それが非鉄市況の上昇につながっている。米国や日本の景気が回復を続けていることに加え、それまで回復が遅れていた欧州の景気が力強さを増しているほか、中国の高成長も続いている。

2月7日には、原油市況の下落が非鉄市況にも波及し、各商品とも大幅に下落したが、8日には総じて下げ止まりあるいは持ち直しの動きになった。世界経済の拡大や運用資金の流入など商品市況の上昇を支えるファンダメンタルズは良好な状態が続いている。

当面の相場動向を考えると、需給にタイト感が出ているアルミニウムや亜鉛は引き続き上昇が見込まれる。ニッケルも、中長期的な需要増加見通しを背景に底堅いと思われる。これまで騰勢が続いていた銅相場は高値警戒感もあり上昇ペースが鈍る可能性がある。

図表1. LME金属指数と世界景気



図表2. LME金属指数(日次データ)



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

調査部

【お問合せ先】 芥田 (E-mail: tomomichi.akuta@murc.jp)

【品目別の動向】

銅 ～ 在庫は緩やかに増加も、スト等を材料に高値更新

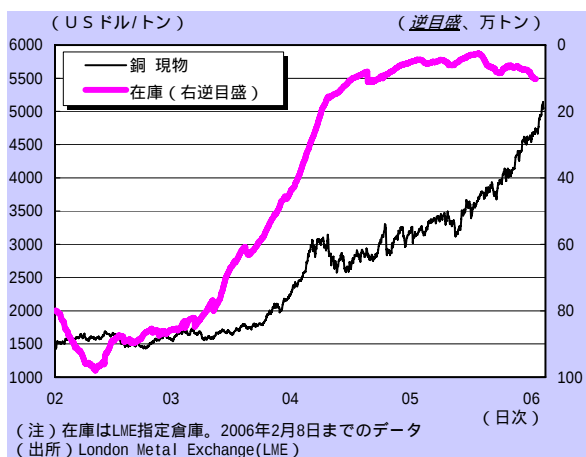
1 月の銅相場は、世界最大の銅生産会社であるチリの国営会社におけるストライキや、年が替わり新たな投資資金が流入するとの思惑などを背景に騰勢が続いた。また、中旬には、旧正月を前に中国の加工業者が銅の調達を増やす季節的な動きも銅相場の押し上げ材料となった。

チリの国営会社が、鉱石中の銅含有量の低下を理由に 2007 年に銅生産量が一時的に減少するとの見通しを発表したことや、2006 年後半にユタ州の精錬所で補修による操業停止が計画されていることも需給逼迫材料とされた。

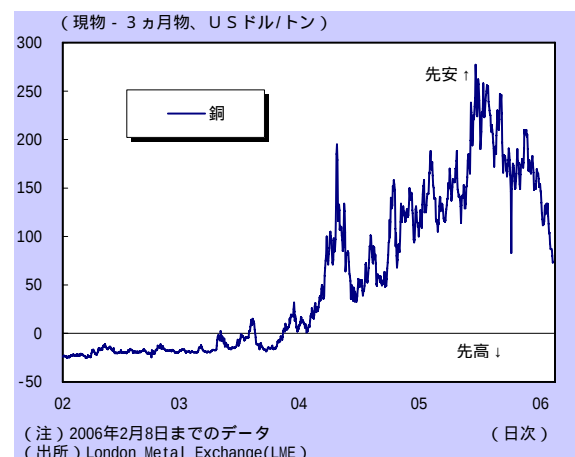
ただし、チリのストライキは、実際の銅生産量にはほとんど影響しなかったとされる。また、中国を中心とする需要の拡大が見込まれる一方で、銅価格の上昇を受けたプラスチックやアルミニウムへの代替や米住宅市場の減速が需要抑制要因として指摘される。銅の在庫は、7 月をボトムに、緩やかに増加に転じてきており、昨年前半までに比べれば、銅の需給は緩和する方向にあるとみられる。

図表 3 . 銅

現物価格と L M E 指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド（現物 - 3 カ月物）の推移



アルミニウム ～ 続伸

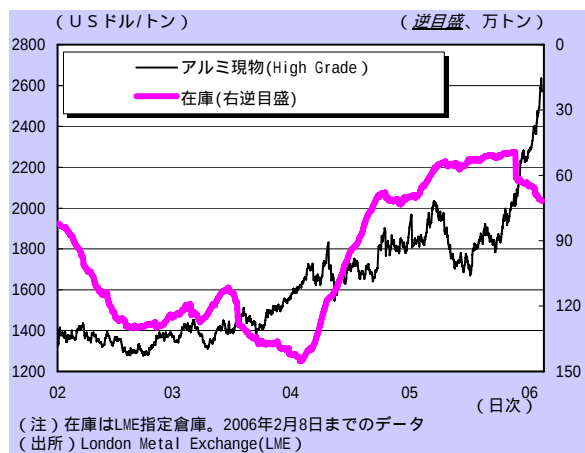
アルミニウム相場は、17 年ぶりの高値圏にあり、1 月も上昇を続けた。目新しい材料があったわけではないが、大手アルミ業者が電力高による採算悪化を受けて欧州や米国の精錬所を閉鎖し、一方で新精錬所の供給がはじまるのはまだ先であること、需要拡大を見越して供給力が急拡大した中国では、原材料となるアルミナ価格の高騰を抑制すべく、12 月初めに 23 社が 10% の減産に合意し実行に移されていること、などが需給を逼迫させる要因となっている。

エネルギー価格の高止まりを背景とした電力料金高や中国需要の急拡大によるアルミナ高により、当面、コスト面からの上昇圧力が続くと考えられる。実際、アルミニウム価格の上昇にもかかわらず欧米のアルミ業者の利益は減少しており、中国のアルミ精錬 86 社のうち 56 社は赤字とされる。

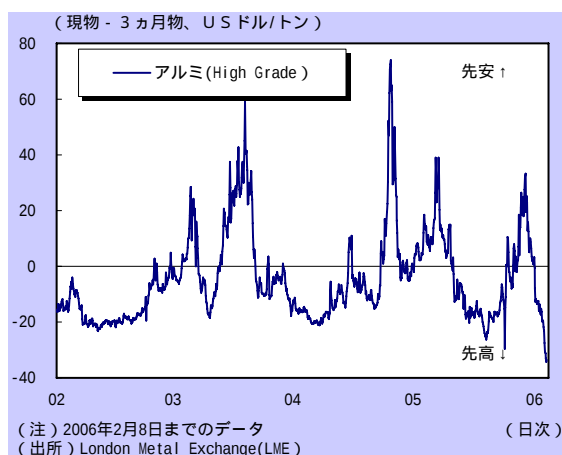
中国政府の指導による減産は継続することが見込まれる一方で、飲料用の缶、窓のサッシ、自動車、航空機向けの需要は拡大が続いており、アルミニウム相場は当面、堅調に推移しよう。

図表４．アルミニウム

現物価格とLME指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド（現物 - 3ヵ月物）の推移



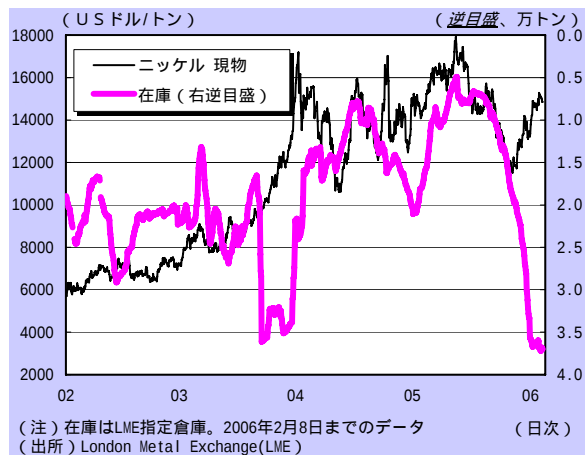
ニッケル ~ 上昇続く

ニッケル相場は、11月をボトムに反発してきている。ニッケル需要の3分の2を占めるステンレス鋼は減産状態が続いており、ニッケル在庫は増加しているが、ステンレス価格の下落に歯止めがかかりつつあることや他商品に比べた出遅れ感などが背景にある。

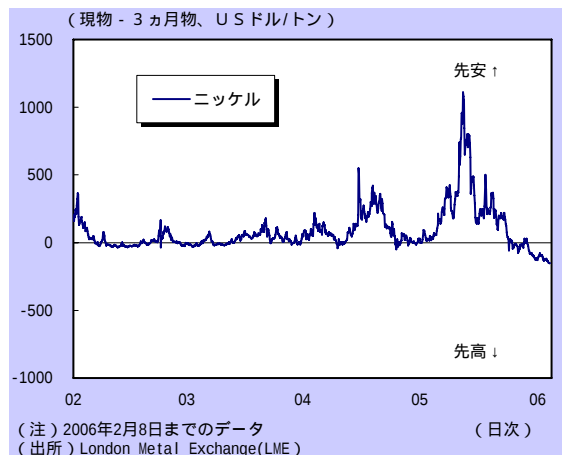
主用途であるステンレス鋼向けの需要は、中国を中心に中長期的に増加を続けると見込まれ、足元では日本や欧州の需要も回復の兆しが出てきている。今後の相場は、足元で在庫が急増していることが抑制要因となる可能性があるものの、中長期的な需要増加観測を背景に底堅い推移が見込まれる。一方で、中長期的な需要の拡大を見越して、ニッケル鉱山の開発を進める動きも各地で出ている。

図表５．ニッケル

現物価格とLME指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド（現物 - 3ヵ月物）の推移



亜鉛 ～ 高値を更新し大幅上昇が続く

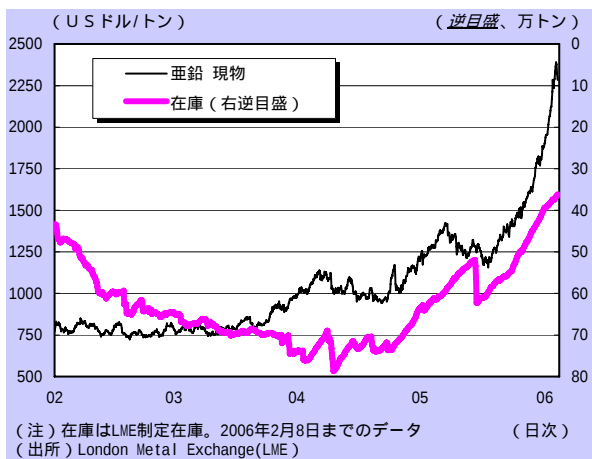
亜鉛相場は1月も大幅上昇が続き、史上最高値を更新した。在庫は減少が続いている。

12月に中国第3位の亜鉛精錬所から有害物質が河川に流出し操業が停止していたのに続き、1月には中国最大の精錬所でも同様な事故が発生した。また、メキシコでは電力障害により精錬所の設備が被害を受け、修復は今年の7～9月期までかかる可能性があるとのことである。さらに、18日にはペルーの鉱山でストライキが発生し（26日終了）、メキシコでも一時ストの発生が懸念された。

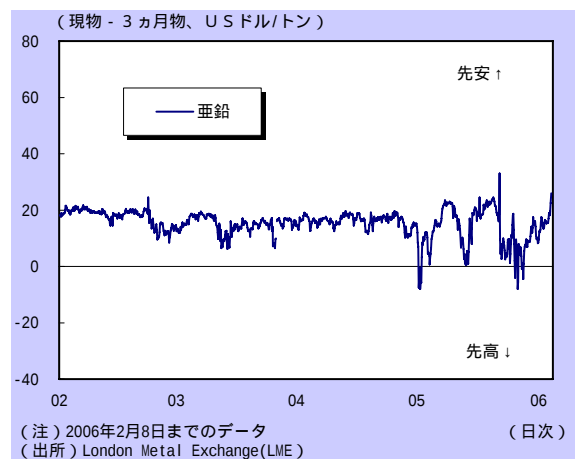
もともと、中国や欧州途上国などの経済成長もあって、主たる用途である自動車や電気機器のメッキ向け需要の拡大が続くと見込まれていた中で、供給制約への懸念材料が相次いだため、大幅な相場上昇となった。精錬所の新設などによる大幅な供給力の拡大は見込まれておらず、需要超過の状態が続くとみられている。

図表6．亜鉛

現物価格とLME指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド（現物 - 3ヵ月物）の推移



本レポートは情報提供を唯一の目的としており、何らかの金融商品の取引勧誘を目的としたものではありません。
また、掲載された意見・予測等は資料作成時点での判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。